

○御神札の祀り方

一、神社からいただいた御神札は神棚でお祀りいたします。神棚が無いご家庭では、目線より高い場所（タンスや本棚の上など）をきれいにしておいただき、そこに一枚白い紙などを敷き、お社を置いてお祀りしましょう。お社が無くてもお祀りできますが、おふだは神様ですからなるべく丁寧に、お社を用意してお祀りするのがよろしいでしょう。

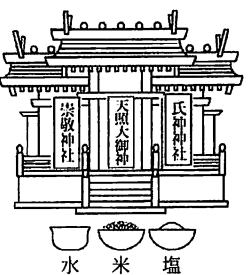
二、おふだを向ける方角は、神様に明るいう方角をご覧ください。南向き、もしくは東向きになるようにお祀りします。（北か西に背を向けるかたちになります）

三、ご神前には、毎日のお米やお塩、お水の他に、祭日・正月には、お酒、お餅、お魚、お野菜、果物など新鮮な初物を感謝の気持ちを含めてお供えします。またお榊もきれいなものをお供えしましょう。（毎月一日と十五日に取りかえるのもよいでしょう）

四、おふだは、中央に天照皇大神宮（神宮大麻）、向かって右側に氏神社（地元の神社）、左側に崇敬する神社のおふだをお祀りします。横に広げてお祀りできない場合には、前から神宮大麻、氏神社、崇敬神社の順に重ねてお祀りします。おふだは一年間お祀りしていただき、一年間お守りいただいた古いおふだは感謝を込めて、神社に納めましょう。

五、桜神宮「大中臣八方清メ」の御神札は当宮でのみ授与される特別な御神札です。古くより正五九参りなどと呼ばれ、御祈願は四カ月毎に祈願をされるのが正しい作法とされています。特に年三回の御祈願を三年以上繰り返し返すことが最も丁寧な作法といわれています。正五九参りをお続けになる方は、古い御神札はそのつど神社にお納め下さい。

〔横に並べてまつる場合〕



〔重ねてまつる場合〕

天照大御神
氏神社
崇敬神社

ご祈願のお申込みやご質問は社務所まで
お問い合わせください。

桜神宮 社務所

〒一五四〇〇二四 東京都世田谷区新町三―二十一―三

電話 〇三(三四二九)〇八六九

FAX 〇三(三四二九)七四五二



大中臣 八方清メ のしおり

桜神宮

○ 御祈祷について

大中臣 八方清メ

桜神宮特別祈祷「大中臣おとなかとみはらほうきよめ八方清メ」は、全国で唯一桜神宮だけで執り行われている、古式神道の由緒正しい御祈祷です。大中臣（天皇家に古くから仕える神祇氏族）の祓の神技「四方八方清めの儀」に由来し、全ての罪穢れを祓い除き、運勢の流れを良くし、願いを叶え人々を幸せに導く御祈祷といわれています。この御祈祷は厄年、方位、地相、家相、因縁の災いなど現世に多数ある全ての災禍災厄を取り除き、災いの元となる諸々の鬼・悪魔などを祓い清める強いお力を持つとされており、当宮では神話の時代より継承されたこの祓い清めの神事により、災いを取り除き、皆様の人生が素晴らしいものになるように誠心誠意ご奉仕申し上げます。

招福の祈願

追儺ついなの神事（節分の豆まき）の際「鬼は外、福は内」と言うように、八方清メの御祈祷で災禍災厄を取り除いた後、あわせて福を招く「招福の祈願」の祝詞をを御神前に奏上いたします。

皆様方それぞれのお願い事、お祈り事を、各種願意の中からお選びいただき、神様に慎んでお伝え申し上げます。

《各種願意（抜粋）》

身体健全 無病息災 病氣平癒 家内安全 夫婦和合 良縁成就 結婚成就 安産祈願
職務成就 商売繁昌 合格祈願 開運招福 心願成就 その他諸祈願

正五九参りのご案内

「大中臣八方清メ」は年三回・四カ月毎・三年以上お続けになるのが正しい参拝の作法とされています。
「正月・五月・九月」の参拝になる事からこれを「正五九参り」といいます。正しい作法でお参りし、
広大無辺の神様の御加護をお受け下さい。

《参拝例》

【正月・五月・九月】 【二月・六月・十月】 【三月・七月・十一月】 【四月・八月・十二月】

八方清メ授与品

「大中臣八方清メ」は、御祈祷初穂料三千円からお気持ちをお納めいただいております。御祈祷をお受けになられた方には授与品をお渡しいたします。

御神前で祓い清められた御札やお守りは大切に持ち帰りいただき、慎んで神様の御利益をお受け下さい。

《御祈祷初穂料》

三千円以上授与品	桜神宮紙札	絵馬	撤饌	御神酒		
五千円以上授与品	桜神宮紙札	お守り	清め塩	絵馬	撤饌	御神酒
一万円以上授与品	桜神宮木札	お守り	清め塩	絵馬	撤饌	御神酒
						記念品